

授業科目

音声学

【担当教員名】 志村 栄二	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎				
【概要・一般目標 : G10】 言語聴覚士として必要な音声学の知識を習得する。				
【学習目標】				
1. 音声学とはどのような分野かを理解する。 2. 調音の場所や方法について記述する。 3. 第1次、第2次基本母音を理解する。 4. 日本語の分節的側面（母音、子音）について理解する。 5. 日本語の超分節的側面（アクセントなど）について述べる。 6. 音韻論と音素論				
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号
1	音声と音声学、調音器官の構造と働き			1, 2
2	単音とその算出、子音の分類方法			2, 4
3	母音の分類方法（第1次基本母音）			2, 3
4	母音の分類方法（第2次基本母音）			2, 3
5	母音におけるさまざまな特徴			2, 4
6	IPAにおける肺臓気流子音 1			2, 4
7	IPAにおける肺臓気流子音 2			2, 4
8	子音におけるさまざまな特徴と、喉頭・軟口蓋気流子音			2, 4
9	音節とモーラ			5
10	日本語のサウンドスペクトログラム 1（母音の特徴）			4
11	日本語のサウンドスペクトログラム 2（子音の特徴）			4
12	日本語の超分節的側面側面 1（アクセント、イントネーション、リズム）			5
13	日本語の超分節的側面側面 2（ポーズ、速さ、強調）			5
14	音素と音素論			6
15	まとめ			1 ~ 6
【使用図書】				
教科書 (必ず購入する書籍)	<書名> 日本語音声学入門【改訂版】	<著者名> 齋藤純男	<発行所> 三省堂	<発行年・価格 他> 2007・2,000円+税
参考書	言語聴覚士のため基礎知識 音声学・言語学	編集 今泉 敏	医学書院	2009・3,800円+税
その他の資料				
【評価方法】 成績は原則として定期試験の点数をもって評価する。	【履修上の留意点】 インターネット上の IPA モジュールを参照することを勧める。			